【らんまづくり】

宮嶋正太郎（みやじま しょうたろう）

【現 住 所】和歌山市
【生　　年】明治29年

職　　歴

徳川家御用達の第18代仏具師の家に生まれ、14才でこの道に入る。

三輪仏具店に勤務（明治42年～昭和3年）

仏具店経営（昭和4年～昭和20年）

才駒工芸に勤務（昭和28年～現在）

業績の概要

14才の時、親戚の三輪仏具店でこの道に入り、以来40余年この道一筋に励んできたが、昭和28年から主にらんまの製作に取り組んでいる。

らんまは設計者の意をくみながら、下から眺めていかに限られた厚みで立体感を出すかということに苦労があり、巾の広い寺院のらんまは特に難しく、市内では湊の海善寺、和歌浦の養泉寺などのらんまを製作し、その伝統を伝えてきたが、現在ではらんまに金箔を張れるのは氏だけとなった。

才駒のらんまは関東流と関西流の相違があるなかで、独特のらんまを製作しているが、氏はその伝統を守りながら新しい技法を研究した成果が認められ、昭和46年皇太子、皇太子妃両殿下がご来県された時、すかし彫りの実技を披露した。

また、昭和35年には優良従業員として和歌山市長から表彰を受けている。